



令和2年度

学校評価

秋田県立秋田中央高等学校

目次

学校関係者、学校評議員	1
-------------	---

教育目標・教育方針・重点努力目標	1
------------------	---

各部

総務部	2
教務部	3
生徒指導部	4
進路指導部	5
特別活動部	6
保健部	7
図書視聴覚部	8
研究部	9

各学年

1年部	10
2年部	11
3年部	12

各教科

国語科	13
地歴・公民科	14
数学科	15
理科	16
保健体育科	17
芸術科	18
英語科	19
家庭科	20
情報科	21

学校関係者、学校評議員 ※敬称略

1	後藤 慎 隆	教育振興会会長
2	竹下 博 英	一交会会長、秋田県議会議員
3	菅 沼 真 澄	P T A会長
4	加賀屋 満	一交会副会長、元秋田県教育庁総務課施設整備室室長
5	石 黒 みどり	元秋田県立五城目高等学校校長、元本校教頭
6	戸 島 義 夫	秋田県バスケットボール協会医科学委員会副委員長
7	景 山 貴 志	秋田銀行営業推進部、元本校P T A会長
8	永 吉 武 志	秋田県立大学生物資源科学部アグリビジネス学科准教授

教育目標・教育方針・重点努力目標

1 教育目標

人格の完成を目指し、自主的な活動を取り、友愛の心を持ちつつ理想を掲げて躍進を図る生徒を育成する

2 教育方針

- (1)豊かな人間性や社会性を育み、二十一世紀を逞しく生き抜く能力の育成に努める
- (2)自ら学び、自ら考え判断し、行動できる資質や能力の育成に努める
- (3)基礎・基本の着実な定着をもとに学力の向上を図り、個性に応じた進路希望の達成に努める

3 目指す生徒像・生き方

高い目標を掲げて、主体的に考え行動する生徒

4 重点努力目標

- (1)授業改善による学力の保証と進路目標の実現
- (2)特別活動の目標の達成
- (3)SSH事業のさらなる広がりと深化
- (4)創立100周年記念事業の成功

重点目標	(1) P T A活動の活性化に努め、総会やP T A関係行事への参加者を増やす。 (2) 創立100周年記念行事を円滑に進める。 (3) 学年部、他分掌との連携を深めながら、分掌活動をとりまとめ学校運営の円滑化を図る。	P
------	--	---

目標達成のための具体的な手立て(方法)	(1) P T A活動に保護者が参加したくなるような内容の精選とP Rを図る。活動の活性化のために、P T A主導で企画・運営がなされるよう促す。 (2) 総務部(式典担当)が中心となり100周年にふさわしい儀式にする。 (3) 学校運営の充実が図れるよう、学年部、他分掌との連絡・調整を密にする。	P
---------------------	---	---

目標達成により期待(予想)される生徒の変容の様子	(1) P T A活動に保護者が理解を深め、行事等に積極的に参加するようになることで、生徒が主体的・積極的に活動するようになる。 (2) 式典が厳粛に行われることで、伝統校としての母校に対する誇りと自覚を養うことができる。 (3) 学年部、他分掌との連携を図ることによって、学校運営が円滑になる。	D
--------------------------	--	---

具体的な取組状況	(1) 高P連、単Pともに行事の中止や縮小が相次いだり、PTA 総会の書面決議やPTA 研修会などは工夫して実施した。 (2) 延期となった100周年記念式典に向けての準備を進めた。	D
達成状況	PTA 総会の同意書提出は例年の出席者を大きく上回り、PTA 研修会の参加者も昨年度より倍増した。(8名→16名)	

自己評価	(評価) A PTA 活動については、昨年より参加者が増えたが、より多くの会員の積極的な参加を促したい。PTA 役員、委員の方々は話し合いの場をもち先々を見据えた活動をしてきている。	C
------	---	---

↑ 評価基準
↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者の評価と意見	(評価) A 100周年記念行事が延期となり残念だが、式典までより良い準備期間が出来たと考え、引き続きお願いしたい。	C
-------------	--	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	・多くの行事が延期・中止となったが、そのような状況にあっても形は違えど、できるだけ通常と遜色のない形で実施できるよう工夫と準備をしていく。 ・多くの方々が100周年記念式典に期待していることが感じられたので遺漏なく準備していく。	A
-----------------------	---	---

重点目標	(1) 授業時数の確保と時間割の円滑な実施。 (2) 新学習指導要領及びSSH事業二期目の円滑な運営を考慮して、教育課程の検討を続ける。 (3) 校内規定の教務関係の内容について検討し、必要に応じて改訂を図る。	P
目標達成のための具体的な手立て(方法)	(1) バランスの良い時間割の作成に努める。また、各分掌と調整を図り、行事及び特別時間割を検討する。 検証：前期末、年度末に各教科、各クラスの授業時数を調査し、時数に偏りがないかチェックする。 (2) 新教育課程作成委員会と連携し、各教科の意見を取り入れながら検討を進める。 検証：職員会議などの場を活用し、検討結果を職員全体で検証する。 (3) 内規改定委員会と連携し、生徒の実態に合った教務規定への改訂を図る。 検証：成績評価、成績処理上の問題が発生しないことを確認する。	
目標達成により期待(予想)される生徒の変容の様子	(1) 偏りの少ない授業時数確保により、基礎学力の向上につながる。 (2) 教育課程の検討にともない、本校に特徴的な探究型の授業を展開することで、自ら課題を発見し、解決に向けて探究し、考えなどを的確に表現する力が身に付く。 (3) 適正な成績評価を行うことで、希望に沿ったキャリア形成を進めることができる。	
具体的な取組状況	(1) 「授業実施時数予定表」の改定を随時行い、偏りがないようにした。 (2) 新教育課程の検討を継続している。 (3) 履修・修得・進級・卒業の認定に係る欠課時数・欠席日数部分を改定した。	D
達成状況	(1) 前期は各教科で適正な授業時数となっている。 (2) 6月に新教育課程検討委員会を実施した。 (3) 今後、評定の算出方法、単位追認考査についても考慮したいと考えている。	
自己評価	(評価) B (1)時間割、(3)校内規定については目標に沿って進めることができたが、(2)の新教育課程について今年度進捗を図りたい。(3)の見直しも進めたい。	C
↑ 評価基準 ↓ A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
学校関係者の評価と意見	(評価) B ・コロナ禍での規制が多い中、生徒の成長への尽力は素晴らしい。 ・評定の算出方法については、生徒も保護者もよくわからず、納得していないのではないかと。 ・状況を鑑み、新教育課程の検討継続を願う。 ・探究型の学力・授業・評価の類型を鮮明にし、ビジョンの共有を今後とも心がけてほしい。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	・新教育課程の素案をR3年度4月中に策定する。 ・評定の算出方法を含めた教務規定の改定を図り、R3年度から運用する。	A

重点目標	◎良識ある社会人になるために、ルールを遵守する態度を身につけ、秋田中央高校の一員として節度ある行動ができるようにする。
------	---

目標達成のための具体的な手立て(方法)	(1) 登校指導、学年集会及びLHR等を通じ、挨拶の励行・遅刻の防止・ルールに則った身だしなみといった基本的な生活習慣を育成する。 (2) 交通安全週間や登下校指導を通じ、交通ルール・マナーを遵守する態度を養う。 (3) 学校行事等を通じ、集団の中の一員として、協調性や他を思いやる心を育成する。
---------------------	--

目標達成により期待(予想)される生徒の変容の様子	(1) 規律ある生活に対する生徒の意識が向上する。 (2) 交通ルール・マナーを守る意識が向上し、通学時における交通事故が減少する。 (3) 他者を尊重する豊かな心が育成される。
--------------------------	---

具体的な取組状況	(1) 昇降口での挨拶、遅刻防止及び身だしなみ指導は週3回(朝会ある日は除く)のペースで、生徒指導部職員が中心となって実施した。 (2) 登校指導は学校周辺の危険な十字路を重点的に生徒指導部職員が交替で毎朝、下校指導は学校～土崎駅周辺を生徒指導主事が随時実施した。年3回の全職員による交通安全指導は予定通り実施できた。 (3) 学校行事は精選されたが、随時の学年部会や日々のHR活動等で学年主任、生徒指導部職員、HR担任が話をした。
----------	--

達成状況	(1) 基本的な生活習慣が身につけていない(挨拶しない、遅刻を繰り返す)生徒が若干いるが、概ね良好である。 (2) 命に関わる大きな交通事故は無く、発生数も減少(2年度15件、元年度21件)したが、所々で危険な状況は見られる。
------	--

自己評価	(評価) B	他分掌や学年部との連携のもと、予定した活動が滞りなく実施できた。遅刻、交通事故は「0」が目標である。
------	-----------	--

↑ 評価基準 ↓
 A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
 B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者の評価と意見	(評価) B	○適切なマナー指導や心に届く声かけが粘り強く実践され、学校の安全安心を支えている。 ○盗難件数が減っているのは指導の賜である。 ○マナーを守っている生徒が大多数で、十分評価できる。 ●地域の人とは積極的にあいさつしてほしい。 ●自転車での登下校は今後も注意が必要である。 ●横並び通学や周りへ迷惑がかかる行動は謹んでほしい。
-------------	-----------	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善	・挨拶が社会生活の基本であることを、学校の教育活動全体を通じて粘り強く訴える。 ・登下校時の交通安全指導を継続する。
----------------------	---

重点目標	(1) キャリア教育の視点に立ち、SSHの成果を踏まえながら、生徒の進路目標の達成に向けて系統的・計画的な取り組みを展開する。 (2) 自ら主体的に学ぶ力を育て、基礎・基本の定着をもとに学力の向上を図る。	
------	---	--

目標達成のための具体的な手立て(方法)	(1) 高校3年間を見通した系統的・計画的な進路指導計画の立案と実践 <ul style="list-style-type: none"> 「ステイポート・学びみらいPASS」や進路志望調査を実施し、有効に活用する。 SSHの成果を生かした総合型・学校推薦型選抜入試への対策を充実する。 eポートフォリオのシステム構築と新調査書、活動報告書への対応を具体化する。 (検証)「ステイポート・学びみらいPASS」や進路志望調査結果の分析、アンケートの実施、進学実績 (2) 学習規律の徹底と学力向上に向けた指導の充実 <ul style="list-style-type: none"> 教科の特性に応じた学習スタイルの確立、ベル即、家庭学習の習慣化を徹底する。 朝学習や小テストのねらいを明確にするとともに、夏・冬季講習の工夫によって、個々のレベルに応じた実践力や応用力を養成する。 大学入学共通テスト(新テスト)にむけて、教務部、研究部等とも連携し、校内研修や授業改善の工夫等に取り組む。 授業力向上のための、教員研修(予備校研修、先進校視察等)を実施する。 (検証)学習時間調査の実施、授業や考査、模試による学習事項の定着度	P
---------------------	---	---

目標達成により期待(予想)される生徒の変容の様子	(1) 主体的な進路意識が高まり、高い目標を持って努力するようになる。 (2) 授業への取組が積極的になり、基礎学力が着実に定着する。	
--------------------------	--	--

具体的な取組状況	(1) コロナの影響があり、前期はオープンキャンパス参加等の進路学習を予定通り実施することが困難であったが、各学年の創意工夫により生徒の進路意識の向上を目指した。 (2) リモートによる教員研修等も含め、概ね取り組むことはできた。	D
達成状況	(1) 総合型・学校推薦型選抜については、SSHの活動を十分に生かした成果となっている。今年度から校務支援システムの活用による新調査書・活動報告書への対応を行った。具体的な作業の進め方については教務と連携しながら体系化を図る必要がある。 (2) 日々の積み重ねによって成果が期待される事項でもあるため、生徒への働きかけと教員の研鑽という両面から今後も継続的に取り組むことで成果につなげていきたい。	

自己評価	(評価) B	重点目標の達成と各学年における進路指導の継続的な充実に向けて、要となる進路指導部としての共通実践事項と学年裁量部分との調整及び共通理解を図ることが来年度以降の課題である。	C
------	-----------	---	---

- ↑ 評価基準 ↓
- A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた
 - B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 - C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者の評価と意見	(評価) B	大学入試制度が大きく変わり、対応が大変だったと思うが、生徒の進路目標達成に向けて効果的な指導を続けてほしい。	C
-------------	-----------	--	---

自己評価及び関係者評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> 各学年の取組による成果と課題を共有し、ブラッシュアップすることで包括的に進路指導の質の向上を図る。 校務支援システムの活用について、関係分掌と連携し作業の体系化を図る。 大学入学共通テストの分析を踏まえ、授業第一主義のもと、対応できる学力を保障するための授業改善と教員研修等に一層取り組む。 	A
---------------------	---	---

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) 部活動を通じて人間力の涵養に努めるとともに、部活動に所属する生徒の学習面での課題を解決し、プライドをもって活躍できる生徒を育成する。 (2) 生徒会の運営を活発にして、生徒が全員参加し、自主的な運営による中央祭、球技大会等各種行事の内容の充実を図る。 (3) 日常的な活動を取り入れた各委員会活動を通し、充実・活性化した生徒会を目指す。
------	--

目標達成のための具体的な手立て(方法)	<ul style="list-style-type: none"> (1) 学年部、部活動顧問等の関係分掌との連携を密にし、各部毎に練習計画を調整して、積極的に学習会、補習、模擬試験等へ参加させる。 (2) 各行事の計画内容を早めに周知徹底し、十分な準備期間が確保できるよう配慮するとともに、地域との連携を積極的に図っていく。 (3) 自主性と責任感をもった委員会活動を展開し、生徒個々の学校生活の充実を図る。
---------------------	---

目標達成により期待(予想)される生徒の変容の様子	<ul style="list-style-type: none"> (1) 部活動と学習との両立によって心身が磨かれ、進路希望の達成が図られる。 (2) 学校行事のさらなる充実と、生徒個人が本校生としての誇りを持つことができる。 (3) 委員会が十分に機能し、その役割を果たすことによって生徒会活動の活性化が図られる。
--------------------------	---

具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> (1) 学年部、部活動顧問が連携し、各部員が積極的に学習会・補習・模擬試験に参加した。 (2) 球技大会など、実施された行事は生徒会執行部が主体となり、自主的に企画・運営された。 (3) それぞれの委員会が計画通りの活動ができた。
達成状況	部活動に入っている生徒の学習活動への参加は積極的に行われた。行事が自粛される中、実施された行事は成功を収めた。

自己評価	(評価) B	学習活動への参加は積極的に行われたが、成績に結びつかない生徒もいた。
------	-----------	------------------------------------

↑ 評価基準 ↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
 B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者の評価と意見	(評価) A	コロナ禍において、行事の中止、縮小、自粛は残念だったが、生徒は前向きに頑張っていたように見られる。部活動が元気であれば学校が勢い付く。
-------------	-----------	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	本校の特色である文武両道をさらに発展させるためにも、部活動加入者の学習意欲向上に向け、各担当と協力していく。 コロナの影響は今後も続くと考えられるが、学校行事等は工夫して実施していく。
-----------------------	---

重点目標	自己や周囲の健康課題に対して、適切な対応ができる能力の育成を図る。	
------	-----------------------------------	--

目標達成のための具体的な手立て(方法)	<p>(1) 健康教育・保健指導を通しての健康意識の啓発・徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症予防を含めた健康維持に関する情報の発信（保健だよりの発行・掲示、ポスター掲示、生徒会保健委員会による中央祭展示等の啓蒙活動等） ・健康講話（性教育講話）、発達障害に関する職員講習、救急救命講習の実施 ・教科との連携による健康教育 ・学年部や部活動との連携による生徒の健康実態の把握と健康課題の発見およびそれに基づく保健指導 <p>(2) 学習環境の整備・指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒による清掃活動が円滑に行われるように、清掃方法を明確に提示し、用具や備品の点検整備に努め、日常的に清掃状況を確認・指導する。 ・学年部や部活動との連携、および生徒保健委員会や美化委員会の活動等を通して、施設の利用者自身が日頃から環境美化の意識を持つよう、啓蒙に努める。 	P
---------------------	---	---

目標達成により期待(予想)される生徒の変容の様子	<p>(1) 健康の大切さを理解し、自分で健康管理することの重要性を認識することで、適切な判断・行動ができるようになる。</p> <p>(2) 学習環境を整備することが健康につながり、学習効果にも反映されることを認識し、主体的に学習環境を整える姿勢が身に付く。</p>	
--------------------------	--	--

具体的な取組状況	新型コロナウイルス感染症の予防および拡大防止を第一に、環境の整備や具体的な行動のしかたについての啓蒙に努めた。予定していた研修等も、限られた状況下でできる限り実施した。	
達成状況	各方面のご協力の下、大きな問題なく対応・実施できた。	D

自己評価	<p>(評価)</p> <p>A</p> <p>厳しい状況下ではあったが、目標はおおむね達成できた。来年度は感染症対策に引き続き努めるとともに、特別な支援を要する生徒への具体的対応の仕方についての職員研修を実施したいと考えている。</p>	C
------	---	---

↑ 評価基準 ↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
 B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者の評価と意見	<p>(評価)</p> <p>A</p> <p>保健衛生と環境整備を結びつけた指導が、新型コロナを始めとする感染症の予防につながっているものと判断できる。コロナ禍における高校生の性の問題についても、今後指導の充実を図って欲しい。</p>	C
-------------	--	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善	校内を視察した委員の方から「マスクをしていない生徒が散見される」との御指摘をいただいた。来年度もコロナとの付き合いが続くと思われるので、生徒の自主性や社会性を尊重しつつ、自己と周囲の人の健康に配慮した生活を送れるよう、指導を継続していきたい。	A
----------------------	---	---

重点目標	(1) 生徒の自主的な学びや生きる力を育む環境としての図書館づくり (2) 生徒・職員の図書館利用の促進と生涯にわたる読書習慣の育成 (3) 職員が利用する視聴覚機材の管理	P
------	--	---

目標達成のための具体的な手立て(方法)	(1) 図書委員会活動の活性化 ・ 図書委員会による企画行事(他校交流、古本市など) ・ 図書館だより「続 Oasis」と図書館報「緑園」の定期発行 (2) 図書館、図書委員会による広報・啓発活動の充実 ・ 授業やSSH、小論文指導で活用できる図書の充実 ・ 県立図書館・市立図書館からの相互貸借によるリクエスト本の手配 (3) 視聴覚機器の管理 ・ 視聴覚機器貸出しと状況の把握、改善 ・ 会議室・大講堂、アリーナの機材の確認と使用方法の周知	P
---------------------	--	---

目標達成により期待(予想)される生徒の変容の様子	(1) 図書委員の活動の機会が増え、積極性が培われる。 (2) 読書習慣が身についた生徒が増え、探究心が高まり、読解力が向上する。 (3) 視聴覚機器の活用で資料提示の幅が広がり、生徒の理解が深まる。	P
--------------------------	--	---

具体的な取組状況	(1) 学校HPでの広報活動、委員によるカウンター業務は縮小しつつ継続。 (2) 県立図書館の相互貸借本やテーマ展示による読書の啓発。 (3) 他校とのPOP交流の実施、図書館内の部活動展示(文芸・華道・写真) (4) 6台のプロジェクターは各授業時間、生徒の発表に活用された。	D
----------	--	---

達成状況	(1) 貸出冊数(4/1～12/31)530冊(昨年同期554冊)と休校、座席数減少等の制限がありながら成果があった。 (2) 休校期間中も新しくなった学校HPを活用し、課題学習や連絡を行った。 (3) Zoomでの講演を実施した。遠隔授業への準備も進められた。	D
------	---	---

自己評価	(評価) A コロナ対応を図りつつも図書館利用を進めることができた。授業や発表へのパソコンやプロジェクターの利用を進めており、次年度の一人一台端末移行に繋げたい。	C
------	---	---

↑ 評価基準 ↓
A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた
B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者の評価と意見	(評価) A 貸し出し冊数に成果を出している。POP交流や部活動展示など生徒のモチベーションアップが図られている。生徒たちに感動する本に接してもらいたい。プロジェクター利用等ICT教育への対応が的確である。	C
-------------	---	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	コロナ禍への対応をしつつ、授業やSSH研究等の環境づくり、本への関心を広める広報活動や生徒交流を今後も継続してゆく。 パソコン室、プロジェクター利用を進めてきたICT活用を、一人一台端末、電子黒板等の利用でより身近なものとして発展させる。	A
-----------------------	--	---

重点目標	(1) 生徒が主体的に活動し、探究していく中央高校型授業スタイルを確立させる。 (2) 職員が効果的に研修できる環境作りに努める。	P
------	--	---

目標達成のための具体的な手立て(方法)	(1) 10月に研究授業月間、12月に公開授業研究会を実施し、教科の枠を超えて授業を参観しあい、協議することによって授業内容の改善を図る。 ・授業アンケートによって、授業の改善点を把握するとともに、生徒が授業に求める水準を明確にする。 (2) 職員研修がより効果的に実施できるよう、現状をふまえて必要な研修内容や時期を設定する。 ・校外研修を案内し、参加を呼びかけるとともに、本校を会場とする研修会に協力する。	P
---------------------	--	---

目標達成により期待(予想)される生徒の変容の様子	(1) 予習、復習を主体的に行って授業に臨み、自分の意見・考えに自信を持ちプレゼンテーション力を身に付ける。 (2) 職員が行った研修の成果が生徒に還元されることにより、学習意欲が高まり、学力が向上する。	D
--------------------------	---	---

具体的な取組状況	(1) 研究授業月間、授業研修会、授業アンケートを通して中央高校型授業スタイルの実践と授業改善の意識の定着を図った。 (2) コロナにより校外研修そのものが減った。英語・数学の研修会が本校を会場に行われた。	D
達成状況	(1) 中央高校型授業スタイルの実践と授業改善の意識は職員間に定着している。研修方法に対する学校評価の教職員アンケートでは昨年の4.0から今年度は4.2とアップした。 (2) 人の移動や密を伴う研修会の機会は減ったが、それに代わるICTを活用した研究協議会の在り方が授業研修会で提案された。	

自己評価	(評価) A	授業研修会が全職員の協力のもと活発になされた。ICTを活用した研究協議会の新たな在り方を検討したい。学力向上の要因は複合的で、職員研修の貢献度は測定が難しい。	C
------	-----------	---	---

↑ 評価基準 ↓
A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた
B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者の評価と意見	(評価) A	研究内容の工夫・改善がビジョンの共有や組織力の向上に寄与し、学力向上に奏功している。	C
-------------	-----------	--	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	・導入されるICT機器について関係部署と連携しながら研修を行う。 ・ICTを用いた中央型探究授業について各科に模索をお願いし、成果を研究紀要にまとめる。 ・授業研修会の効果的な在り方を模索する。	A
-----------------------	---	---

重点目標	(1) 自己管理能力を高め、基本的な生活習慣の確立を図る。 (2) 学びを広げたり深めたりするための「自学力」を育成し学力の定着を図る。 (3) 諸活動に主体的・協働的に参加し、目標達成に向けて努力する姿勢を養う。
------	---

目標達成のための具体的な手立て(方法)	(1) ホームルーム・学年集会等での講話や整容指導・遅刻指導等を通して、生徒が集団生活の規律やルールを遵守することの重要性を理解し、集団の一員としての自覚と責任に基づく行動ができるよう働きかける。日常の生徒観察や面談等によって状況の掌握に努める。 (2) 日々の授業、朝学習や小テスト、週末課題等から得られた知識と技術を創意工夫しながら活用することを促すとともに、生徒が学習への内発的動機を高められる場の設定をする。また、生徒が学習時間確保の重要性を認識できるよう、学習時間調査を活用し生活時間を可視化する。各種アンケート、模擬試験の結果で検証する。 (3) ホームルームや学校行事、部活動等を好機会と捉え、生徒が主体性とチームワークを意識して取り組めるよう働きかける。また、SSHの探究活動やプレゼン発表を通して、生徒が問題解決に根気強く向き合い確かな成果を導き出せるよう多面的に支援する。活動前後における生徒の変容やSSHの研究成果により検証を図る。
---------------------	---

目標達成により期待(予想)される生徒の変容の様子	(1) 基本的な生活習慣が確立し、自律的に生活する力が身に付く。 (2) 自ら進んで学び続ける意欲が高まり、個々の目標に沿った学力が定着する。 (3) 何事にも主体的に取り組み、コミュニケーションを図りながら前向きに挑戦する姿勢と実践的な態度が培われる。
--------------------------	---

具体的な取組状況	(1) 各教科の提出物の期限厳守や遅刻指導など、基本的な生活習慣の定着を学年全体で情報共有しながら指導にあたった。(2) 毎日の学習時間記録、定期考査対策としてスタディジョギングの実施、Classiを活用しての長期休業中の生徒への声かけ、WEBテストグランプリの開催、またWEBオープンキャンパスへの参加など生徒が学習への内発的動機づけを高める指導を行った。(3) コロナの影響で活動は限定的であったが、SSHの探究活動を可能な範囲で継続的に行うことができた。
達成状況	各教科の課題提出率は95%以上で、ほとんどの生徒が期限を守る習慣を備えることができた。模試の結果は3教科総合で過年度と比較でも決して悪くはないが、家庭学習時間をみると平日が1時間半程度である。決して多いとはいえず、今後の課題である。

自己評価	(評価) B	学年全体で目標を共有し、先生方との情報交換そして連携を密にしながら取り組むことができた。
------	-----------	--

↑ 評価基準
↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者の評価と意見	(評価) A	コロナ禍で活動が限定的な中、新しい取り組みを実践し、一定の成果を上げている。
-------------	-----------	--

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	更なる自主的な学習への取り組み、進路目標達成のために Classi を活用して適切な指導を継続していく。上位者対策を2年次より実施する。進路指導、生徒指導ともに先生方で情報共有を図りながら連携し、組織的に対応していく。
-----------------------	---

重点目標	(1) 人を傷つけない優しい気持ちと傷つかない強い精神力を養う。 (2) 自己認識を更に深め具体的な進路目標を掲げ、学問への真摯な取り組みと学力向上を図る。 (3) 個々の能力と特性を効果的に活かすことで、共に高め合える集団を育成する。
------	--

目標達成のための具体的な手立て(方法)	(1) 学年集会や学級通信等で日常的に呼びかける。また、困りごと調査やいじめ調査に於いて挙がった生徒の悩みを見逃さず、深く踏み込んだ指導を実践する。 (2) 成績上位者のグループを作り、互いに切磋琢磨できる状況を作り上位者の強化を図る。さらに、成績下位者の学習意欲を向上させ、考査前の対策講座等で粘り強く指導する。各種アンケート、模擬試験の結果で検証を図る。 (3) HRでの面談を重視し、生徒の能力と特性の把握に努める。システム手帳を活用し自己管理能力を高める。ポートフォリオ等を活用し、自己の特性を把握させ、行事や日常生活において為すべきことを判断し行動できる能力を身につけ人の役に立つ喜びを体得させる。ポートフォリオの生徒記述によって検証する。
---------------------	---

目標達成により期待(予想)される生徒の変容の様子	(1) 人間関係によるトラブルがなくなり、すべての人間が楽しく安心して学校生活を送ることができる。 (2) 学年全体で学習意欲が高まり、学力が向上する。 (3) クラスの個性と学年の個性が現れ、明るい雰囲気醸成される。生徒個々の自己認識が高まるため、自己の特性を活かした進路選択に資することができる。
--------------------------	--

具体的な取組状況	(1) 担任・副担による細かな生徒観察や日々の声かけ等をこまめに行った。学年集会は、あまり実施できなかつた。(2) 7:30 からの上位者講習(前期は英数国、後期は英数理)を実施。考査前に下位者に対して教科別補習を実施。(3) 4月と9月に個人面談を全員と実施。システム手帳は長期休業や考査・模擬試験のときに回収し振り返りを確認した。生徒自身が計画立案し修学旅行代替行事を実施した。
----------	---

達成状況	いじめは1年次よりはかなり減少した。成績上位者は受験に対する意識が高まった。学習面での自主性は物足りなさがあるが、行事等での自主性や責任感については高まっている。
------	---

自己評価	(評価) B	目標達成のために、中でも学力を向上させようと学年部職員が連携をとって様々なことに取り組むことができた。進路目標達成のために、自主的に学習する手立てを継続して講じていきたい。
------	-----------	--

↑ 評価基準 ↓
 A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
 B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者の評価と意見	(評価) A	着実に課題解決を重ねた結果、高い目標達成度が示されている。表面化していない人間関係のトラブルもあると思うので生徒の様子をよく見てよく話を聞いてほしい。
-------------	-----------	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	最高学年としての自覚、自主的な学習への取り組み、進路目標達成のための為すべきことなどをシステム手帳や面談で確認しながら適時適切な指導を継続していく。上位者対策と共に放課後講習を実施する。人間関係については、学年部職員が情報共有を図りながら観察し見守りながら組織的に対応していく。
-----------------------	---

重点目標	(1) 人を傷つけない優しい気持ちと傷つけない強い精神力を養う。 (2) 自己の進路目標実現のため、諦めず、粘り強く取り組む、我慢強さを養う。 (3) 周囲に甘えず、自分で判断、決定し、自己の言動に責任を持つ姿勢を養う。
------	--

目標達成のための具体的な手立て(方法)	(1) 学年集会や学級通信等で日常的に呼びかける。また、困りごと調査やいじめ調査等に於いて挙げた生徒の悩みを見逃さず、深く踏み込んだ指導を実践する。各種調査の結果で、その変容を検証する。 (2) 進路目標について、実現可能なのか、どの程度の努力が必要なのか、しっかりと考えさせる。その上で、各教科ごとの1年間の学習計画を立案させる。担任との面談ではその計画の遂行状況を見ながら、叱咤激励して、進路目標への意欲を喚起し続ける。模擬試験と、進路第一志望達成率で検証する。 (3) ホームルームや学校行事等で、教師が手を貸すことは最小限にとどめる。また、あらゆる場面で、考える時間をじっくり与え、熟考させたい。また、行事や部活動の大会終了後にe-ポートフォリオに記入させることで、自己の責任をしっかりと果たせたのかを振り返らせたい。e-ポートフォリオの生徒記述の変容によって検証する。
---------------------	---

目標達成により期待(予想)される生徒の変容の様子	(1) 人間関係によるトラブルがなくなり、すべての人間が楽しく安心して学校生活を送ることができる。 (2) 学年全体で学習意欲が高まり、学力が向上する。計画的に学力を高めることで、焦らずに最後まで粘り強く進路目標に挑み続けられる。 (3) 自主性と責任感が身に付く。また、e-ポートフォリオにこまめに入力する習慣も身に付く。
--------------------------	--

具体的な取組状況	コロナ感染予防のため学年集会は、あまり実施しなかった。学年学級通信は節目毎に発行できた。学習への叱咤激励は常に行った。学校行事がほとんど無く、生徒が自主的に行動する機会がほぼ無かった。
達成状況	いじめは無くなった。学校に馴染めない生徒は激減した。模試の成績は過去5年間ではトップ。自主性と責任感については不明。

自己評価	(評価) A 良く言えば臨機応変、悪く言えば行き当たりばったりな活動が多かったが、3年部職員と生徒達のがんばりによって最低限の目標は達成できたと感じている。
------	--

↑ 評価基準 ↓
 A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
 B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者の評価と意見	(評価) A いじめや学校に馴染めない生徒の激減などは指導者の地道な指導の成果と考える。模試過去5年間トップの成績を収めたのは大きな収穫である。
-------------	--

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	1年間を見通した「手立て」と「期待される生徒の変容の様子」だったのだが、コロナや猫の目のように変わる入試システムのために、計画通り進めることができなかった。ただ、計画は現状に合わせて常に変化させて行く必要がある。急な事態にもすぐに対応できるような柔軟性を持ったシステムを計画しなければならない。
-----------------------	---

重点目標	(1) 予習・復習を主体的に行って授業に臨む姿勢を培う。 (2) 文章読解に必要な基礎事項の定着をはかり、文章を的確に理解し評価する力を育成する。 (3) 自分の考えを論理的に表現する力を育成するとともに、相手の考えを尊重し理解する力を高める。
------	--

目標達成のための具体的な手立て(方法)	(1) ノート・プリント・テキストで予復習・課題等の取り組みを確認する。 (2) 授業・講習で基礎的事項を繰り返し確認して自主学習の成果をはかる。また、文章の図式化や本文への書き込みにより全体の構成を把握させる。文章の内容を要約し、自分の意見を文章にまとめる機会を多く設ける。 (3) 授業でグループワーク・話し合い・発表を通して、根拠を明確にして自分の考えを述べ、相手の考えを理解し評価する機会を多く設ける。
---------------------	---

目標達成により期待(予想)される生徒の変容の様子	(1) 授業時間以外での主体的な学習が習慣化する。 (2) 基礎事項の定着により文意を正確に把握できるようになる。文章の構成や論理、展開を意識して読む力がつき、自ら問題意識を持って考える力が向上する。 (3) 論理的に表現する力がつき、自分の考えを更に深めることができる。
--------------------------	--

具体的な取組状況	(1) 予習→授業→復習を効果的に行える授業プリント等の作成 (2) 要約や意見を論理的に考え、記入する活動の実施 (3) ペアワーク・グループワークでの話し合い活動と発表の実施
達成状況	上記(1)～(3)を、各学年の国語科で生徒の実態に合わせて取り組んだ。1・2年の授業アンケートでは、2年は総じて高評価。1年は古典は全体的に向上したが、現代文の「予復習する姿勢」が低下し、改善が必要。

自己評価	(評価) B	1・2年次から、学習意欲を低下させずに、いかに主体的に取り組ませるかが課題である。科内での情報交換を密にしながら取り組んでいきたい。
------	-----------	--

↑ 評価基準 ↓
 A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
 B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者の評価と意見	(評価) B	指導方法や学習内容に常時検討・改善を加え、学びに向かう態度をはじめとする学力向上に腐心している。引き続き指導をお願いしたい。
-------------	-----------	--

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	次の項目について科内で話し合い情報を共有する (1) 「授業中に考え、気づき、学ぶ」姿勢を養う授業のあり方 ・生徒に授業を中心とした継続的学びが必要だと思わせる指示の工夫等 (2) 「計画を立てて主体的に学習に取り組む」姿勢を養う指導の工夫 ・国語科通信等での提示の仕方・声かけの工夫等
-----------------------	---

重点目標	<p>(1) 現代社会の諸問題と授業内容とを関連させ、生徒が主体的に探究できる授業づくりに努める。</p> <p>(2) 中学校での既習事項も含め習得した知識を活用し、さらに深化させるとともに他者と協働して学び合い、自身の考えを表現する力を養う。</p> <p>(3) 一人一人の進路目標の実現に向け、大学入学共通テスト実施も踏まえて確かな学力を保證出来るような授業改善を行う。</p>
------	---

目標達成のための具体的な手立て(方法)	<p>(1) 新聞等を通して現代の諸課題に気づかせ、授業内容を関連づけて展開する。また、問題を多面的にとらえるために、諸資料を収集、活用する機会を提示する。</p> <p>(2) 発問の工夫、ICT機器の活用などを通して授業改善をはかり、個人で考え、グループ内で共有し、発表させることで、授業内の言語活動を活発にする。授業に参加する姿勢、プリントや考査問題の記述内容などによって検証する。</p> <p>(3) 復習の徹底をはかり、基礎的・基本的事項の定着をはかる。また、開かれた授業作りを目指し、教員間で互いに意見を交換するような機会を設ける。</p>
---------------------	---

目標達成により期待(予想)される生徒の変容の様子	<p>(1)(2)共通 社会人として役立つ知識やものの見方、思考力、表現力等を身につけることにより、めまぐるしく変化する社会に対応できる人間となる。</p> <p>(1) 生徒が授業内容に対する興味関心を高め、積極的に参加するようになる。また、現代社会の諸事象に対する関心が高まり、課題を発見し解決方法を探ろうとする姿勢が身につく。</p> <p>(2) 学びの中から、新たな疑問点を見だし、探究しようとする姿勢が身につく。結果、深い理解へとつながり、自らの考えを他者に伝えるように発信できる。</p> <p>(3) 理解が深まり、知識が定着する。校外模試でのSS50以上が60%、同60以上が15%を超える。大学入学共通テストでは全国平均を上回る。</p>
--------------------------	---

具体的な取組状況	共通テストを見据え、思考を深めるよう発問を工夫し、視聴覚教材も有効に活用するよう努めた。また、基礎的・基本的事項の定着をはかるべく課題テスト等を活用した。
達成状況	共通テストの結果、模試結果を見ると徐々にではあるが効果が現れてきている。一方で、時間的制約もある中で、現代の諸課題について、2・3年次に継続的につなげることに努める必要がある。

自己評価	(評価) B 共通テストの出題内容を精査し、授業改善をさらに進めていきたい。また、論述、小論文にも対応出来るような時事的な知識・情報を提供し思考力を高めていきたい。
------	--

↑ 評価基準 ↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
 B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者の評価と意見	(評価) A 時事的事項を授業と関連づけるのは良い。さらに自ら発信できるような取り組みを。共通テストで全国平均を上回っているのは良い。
-------------	--

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<p>時事的事項を授業に関連づけながら、生徒自らが情報を集め、活用・考察するような授業改善を行う。</p> <p>ひとりひとりが自身の考えを発信できるような機会も設け、コロナ禍においても班ごとの話し合いや発表が出来る場を工夫して設ける。</p> <p>共通テストを分析し、基礎基本の徹底とともに、諸資料を深く読み取る力を養う。</p>
-----------------------	---

重点目標	(1) 生徒が自ら主体的に考え、解法に取り組む授業を実践し、生徒の数学に対する興味・関心を高める。 (2) 3学年に渡った系統的な指導を目指して科内の情報交換を活発にし、各々の指導方法の改善を図る。 (3) 基礎・基本を定着させる手立ての一つとして、自主的かつ計画的な家庭学習の習慣化を図る。
------	--

目標達成のための具体的な手立て(方法)	(1) お互いに授業参観を積極的に行い、感想や意見を述べ合うことを通して、各々の授業を改善し、魅力ある授業展開を目指す。 (2) 科会を定期的に開いて学年間で情報や資料を共有するなど、連絡・報告・相談を密にする。 (3) 基本的な事項の理解や計算力の向上のため、朝学習や小テストを実施する。週末課題等の取り組み状況を点検し、必要に応じて個別指導を行う。
---------------------	--

目標達成により期待(予想)される生徒の変容の様子	(1) 授業を見る、見られることで教師間に刺激が与えられ、授業を改善しようとするムードが高まる。教師の積極的な姿勢が生徒に伝わり、生徒の学習意欲が高まる。 (2) 他学年の成績状況や指導の様子を全員で把握し、数学科として一貫した指導ができる。 (3) 基礎基本が定着することにより、数学に対する興味・関心が深まる。それによって、基本事項の理解が深まり、応用問題へ取り組む生徒が増加する。
--------------------------	---

具体的な取組状況	日常的に授業を見せ合うまでには至らなかったが、授業研究会では、情報交換が活発に行われ、生徒が主体的に活動する授業の在り方について研修を積むことができた。
達成状況	定期的な小テストや復習テストを実施し、十分な点数に到達できない生徒には再テストなどの見直しを丁寧に行うことにより生徒の理解が深まり、学力向上につながった。

自己評価	(評価) B 科内の意思疎通を深め、数学科として統一感のある指導法を確立してきたい。また、大学入試に対応できるよう、授業の改善、定期考査の改善を行っていきたい。
------	--

↑ 評価基準
↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
 B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者の評価と意見	(評価) A 数学の学力向上に取り組む姿勢や研修意欲が明らかであり、数学のよさを実感する生徒の増加が期待される。
-------------	--

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	お互いに授業参観を積極的に行い、生徒の学習意欲向上と教員の授業スキルの向上に励む。生徒が数学のよさを実感し、主体的に取り組めるような環境を創っていく。
-----------------------	---

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) 授業を通して生徒が自然科学に興味・関心を抱き、自己実現に向けて主体的に学ぶ姿勢を養成する。 (2) SSH 事業を通し、生徒が課題を把握し、見通しを持って計画的に観察、実験を行い、結果を分析・解釈して探究活動をすることで課題解決能力を養成する。 (3) 大学入学共通テストに関する情報を収集し、生徒へ還元していくとともに、生徒の共通テストで問われる力を向上させるために、授業を改善する。 	
------	---	--

目標達成のための具体的な手立て(方法)	<ul style="list-style-type: none"> (1) 教員同士で授業を参観したり、積極的に情報を共有したりする。 (2) 諸大学との連携を図るとともに、教員が積極的に校内外の研修に参加する。躍進において、生徒の探究活動をサポートし、校外へ成果を発信する。 (3) 研究会等に参加して、情報収集に努めたり、試行テストや模試の分析を行ったりする。定期考査や課題テストで作問を工夫する。以上を授業アンケートや SSH アンケートおよび研究発表活動をもって検証する。 	P
---------------------	--	---

目標達成により期待(予想)される生徒の変容の様子	<ul style="list-style-type: none"> (1) 家庭学習量が増え、学力の向上により進路志望が達成できる。 (2) 諸大学の教員・学生や地域との交流が進むことで、生徒の課題研究へのサポート体制が構築され、秀逸な探究活動が期待できるとともに、主体性が養われる。 (3) 思考力・判断力・表現力が鍛えられ、共通テスト、二次試験に耐えうる力が身に付く。 	
--------------------------	--	--

具体的な取組状況	互いに授業を自由に参観する機会は多くはなかったが、教科、科目内での情報共有は日常的になされている。SSH 事業に理科としては多くの労力を割き、大学との連携もとってきた。定期的に小テストを行い、基礎学力の養成に努めた。	
達成状況	観察、実験や定期考査を通して、表現力を鍛えることができた。小テストや定期考査、模試の復習に取り組む中で、学習時間が確保されてきた。	D

自己評価	(評価) B	表現力が鍛えられた生徒達は、総合型選抜において良い結果を出した。共通テストを研究し、授業や定期考査に還元していく。試験に耐えうる思考力の養成は、今後も意識して取り組んでいく。	C
------	-----------	---	---

↑ 評価基準 ↓
 A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
 B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者の評価と意見	(評価) A	医療(理数)系に進学する生徒が増えている。SSH の要として、探究型の学力伸長を力強く牽引している。	C
-------------	-----------	--	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	生徒が自然科学に興味・関心を抱けるような取り組みを継続、発展させる。SSH の要として、探究型の学力伸長をより強化するために、校内外の関係機関と連携し、探究活動をサポートする。大学受験に耐えうる基礎学力や思考力を向上させるために、授業改善、考査の作問の工夫は、今後も意識して取り組んでいく。	A
-----------------------	---	---

重点目標	(1) 体育 ・生涯を通じ、自らすすんで運動を実践できる能力と態度を育成する。 ・運動の特性に応じた危険を予知し、自他の安全に留意できるようにする。 (2) 保健 ・生涯を通じ、健康と安全に留意した生活を送ることができるようにする。
------	--

目標達成のための具体的な手立て(方法)	(1) 体育 ・体づくり運動を、年間を通じて取り入れることにより体力の向上を図る。特に、選択体育では、自ら考え判断する活動を促すことにより、個に応じた達成感、成就感が得られるようにする。 ・準備運動及び体づくり運動の中で、各種運動の特性に応じた危険を知らせる。 (2) 保健 ・自他の健康と安全について主体的に考えられるようにするために、発表や意見交換の機会を多くする。
---------------------	---

目標達成により期待(予想)される生徒の変容の様子	(1) 体育 ・今年度の新体力テストにおいて、例年県内の上位に位置している本校生徒の体力が向上または維持される。 ・日常生活の運動場面でも、危険を回避できるようになり怪我が減少する。 (2) 保健 ・得た情報や知識により、生涯を通じて健康と安全に留意して生活できるようになる。また、他者の考えを受け入れ、自分の意見をしっかりと伝えられるようになる。
--------------------------	--

具体的な取組状況	(1) 体育 ・準備運動及び体づくり運動を毎時間の導入部分で実施するなど、生徒が自らすすんで運動を実践し、体力の向上・技能の向上に励んだ。 (2) 保健 ・グループワークを積極的に取り入れ、発表の機会や意見交換の場を設けることで、活発な討議が行われた。
----------	---

達成状況	(1) 体育 ・大きなケガをすることもなく、体力向上がみられた。 (2) 保健 ・グループワークでの意見交換が活発になり、グループで1つの答えを導き出すことができた。
------	--

自己評価	(評価) B	生徒自ら体力の向上に励み、運動の特性に応じた危険について理解することができた。
------	-----------	---

↑ 評価基準 ↓
 A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
 B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者の評価と意見	(評価) A	思うような活動ができない状況の中、伸び伸びと身体を動かし、安全に留意した活動は評価できる。
-------------	-----------	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	様々な制限の中での活動であったが、生徒たちは自ら身体を動かす工夫をし、伸び伸びと取り組んでいた。 今後は、生徒たちの主体的な活動により、課題解決ができるよう事故防止に配慮しつつ取り組ませたい。
-----------------------	---

重点目標	(1) 生徒一人一人が自発的に表現活動に取り組めるようにする。 (2) 個性や能力を生かす授業を行い、お互いの表現を楽しめる生徒になる。	P
------	---	---

目標達成のための具体的な手立て(方法)	(1) 能力の伸長に必要な基礎的な技法・知識を習得でき、興味を持ち、取り組みやすい授業や題材を工夫し表現させる。 理解や発想、取り組みを表現の状況から確認する。 (2) 発表(鑑賞)形式の学習活動の場を工夫し、互いの表現を認め合い良さを引き出す。発見や感想が自分の表現に現れるよう指導する。	P
---------------------	---	---

目標達成により期待(予想)される生徒の変容の様子	(1) 授業の雰囲気が活発になり、生徒が自主的に活動する。 (2) 生徒一人一人が優れた表現を愉しみ、個性豊かな表現につなげられる。	P
--------------------------	---	---

具体的な取組状況	(1) 生徒が意欲的に取り組めるよう、コロナ禍に対応したカリキュラム変更や座席配置などで授業を展開した。 (2) 発表が難しい中、一人一人が達成感を得られるように個別の技能向上に取り組ませた。	D
達成状況	(1) 授業展開の見直しで、授業時数減少分も達成できた。 (2) 休学明けの生徒間の繋がりがスムーズで、お互いの良さを認め合いながら授業に取り組んだ。	

自己評価	(評価) A	休校後も落ち着いた取り組みが出来ており、充実した実技指導を展開できた。	C
------	-----------	-------------------------------------	---

↑ 評価基準
↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者の評価と意見	(評価) A	生徒は楽しんで学習している。今後も、生涯にわたって芸術を尊び愛好する心情の育成や表現・鑑賞活動の充実を期待する。	C
-------------	-----------	--	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	コロナ禍が続く中でも、より自由な発表や制作方法を検討し芸術活動を愛好する生徒の育成に努める。 生徒の表現意欲や仲間意識の醸成のため、学校行事の推進等に芸術科として協力してゆく。	A
-----------------------	---	---

重点目標	(1) 自律的・主体的な学習者の育成 (2) 「聞くこと」「話すこと」「読むこと」及び「書くこと」の4技能のバランスが取れた確かな学力の育成 (3) 英語によるコミュニケーション能力の更なる育成
------	---

目標達成のための具体的な手立て(方法)	(1) 学習内容の定着度に応じて課題等の与え方を工夫する。生徒の学習時間調査や定期考査等の成績を通じて検証する。 (2) 授業において4技能を統合した(複数を組み合わせた)活動を行う。小テスト、定期考査、パフォーマンステスト等を通して、生徒の学習に対する意識向上を図る。また、授業アンケート等により、指導方法の検証や改善に取り組む。 (3) SSH事業における発表活動等を通して、英語で効果的に情報を発信する方法を学ばせる。英語でやり取りする機会を増やすために、ディベートやディスカッションを段階的に取り入れた指導を工夫する。生徒の活動観察により検証する。
---------------------	--

目標達成により期待(予想)される生徒の変容の様子	(1) 自律的に学習することで知識・技能の更なる定着が図られる。主体的な学びにより理解が深まり、発展的な学習につながる。 (2) 実践的英語運用力が高まるとともに、英語学習へのモチベーションが上がる。また、生徒個々の課題が明確になり、弱点の補強が期待できる。 (3) 相手を意識して「話したり」「聞いたり」する態度が養われる。また、相手の話した内容を素早く理解した上で、即興で自分の考えを述べる力が身に付き、実際の英語の使用場面で活かされることが期待できる。
--------------------------	---

具体的な取組状況	(1) 継続的に週末課題や週間課題を与えたり、朝学習で語彙・文法力強化、速読やリスニングトレーニング等を行った。英単語選手権、上位者対策等、生徒の学習意欲を喚起する取組を各学年で工夫した。 (2) 限定的ではあるが、ペアワークや発表を取り入れた授業を行った。教科書内容を基にALTとのTT及びライティング活動を行った。 (3) 各自の研究・調査を英語で発表する取組を通じて、既習事項を用いて英語でやり取りする機会を与えた。
----------	---

達成状況	英語学習時間の多くが課題をこなすことに費やされている状況がある。各自の興味・関心や英語力向上意欲等に基づき、主体的に学ぶ姿勢の育成が引き続き課題である。また、4技能のバランスを意識した授業展開はなされているが、ディベート等への取組は今後の課題である。
------	---

自己評価	(評価) B	目標達成と生徒の英語力向上のために、各活動の妥当性や効果を検証し、見直したり改善を加えたりする必要がある。
------	-----------	---

↑ 評価基準 ↓
 A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
 B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者の評価と意見	(評価) B	英語でのディベートやディスカッションを取り入れるという目標は少々ハードルが高いように感じるが、効果的指導を続けてほしい。日本語でのトレーニングも必要かと思う。
-------------	-----------	---

自己評価及び学校関係者との関係改善	<ul style="list-style-type: none"> 授業での生徒の言語活動において、知識・技能の習得型学習と、思考・判断・表現する活用型学習のバランスを考えた指導を行う。 ディベートやディスカッションの素地となる論理的・批判的思考力や表現力を、英語の授業及び教科横断的な指導を通じて育成する。 大学入学共通テストで求められる知識・技能等を踏まえ、リーディング及びリスニング指導の在り方を検討する。
-------------------	--

重点目標	(1) 人の一生を生涯発達の視点で捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて興味・関心を高めるよう、自分の実生活と結び付けて理解させる。 (2) 生活課題を主体的に解決するために必要な知識と技術を習得させ、家庭生活の充実向上を図る意欲と実践的な態度を養う。 (3) 「ホームプロジェクト」の実践及び発表を通して、生活を科学的に探究する方法やプレゼンテーション能力を育成する。
------	---

目標達成のための具体的な手立て(方法)	(1) 生徒にとって身近な題材を取り上げたり、実物の提示や新聞記事・データを活用したりするなど、実生活に即した教材の工夫をする。 (2) 実験・観察、実習を適宜取り入れ、生徒が興味・関心をもち知的探究心を高める工夫をする。 (3) 生活改善という視点を明確にし、長期休業中を有効活用できるようガイダンスを充実する。
---------------------	---

目標達成により期待(予想)される生徒の変容の様子	(1) 家庭科を身近な教科と捉え、授業に向かう姿勢が積極的になり、主体的に学ぼうとする意欲を高める。また、自己理解を深めるとともに自分、家族、社会に関心をもち、自分らしい生き方について考えることができる。 (2) 実験・観察に取り組んだり、作品を完成したりすることにより習得した知識と技術を、実生活で主体的に活用・応用しようとする。 (3) 身近な生活から課題を見だし、解決方法を考え計画・実行・反省という過程を通じて自己解決ができる。また、その成果を効果的にプレゼンテーションすることができる。
--------------------------	--

具体的な取組状況	(1) 実生活に即した工夫をすることができた。具体的には複数の分野の内容を融合した題材にしたり、新聞記事を有効に活用したりした。 (2) 前期はグループで行う調理実習を控え、実技テストを実施した。後期は調理実習を1回実施した。コロナ関連により全て計画通りではなかったものの、できる限り工夫をして取り組むことができた。 (3) 冬季休業中の課題として、「ホームプロジェクト」を実施した。
----------	--

達成状況	(1) 生徒は家庭科を身近な教科と捉えているが、積極的に取り組む姿勢や主体的に学ぼうとする意欲には個人差がある。進路指導と関連付け、自分らしい生き方について考えを深められるよう今後も工夫をしていきたい。 (2) 回数は少なかったが、作品製作や実技テスト、調理実習により知識と技術を実生活に活用・応用できる姿勢をみられた。 (3) 生活改善という視点でテーマを掲げ、全体的な生徒の取り組み状況は良好であった。ねらいとしていた問題解決能力・プレゼンテーション能力の向上他に、(2)とも関連している主体性の評価もすることができた。
------	--

自己評価	(評価) B 今年度は、秋田県健康福祉部長寿社会課の「介護の仕事の魅力発見事業」を活用した出前授業も実施した。今後も実技教科の特性を生かし、できるだけ体験的な学習活動を取り入れ、実感を伴った理解と思考を深めさせたい。
------	--

↑ 評価基準 ↓
 A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた
 B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者の評価と意見	(評価) A 生活の中での課題を解決する具体的な方法を考えながら、家庭科を学べるように指導してほしい。
-------------	---

自己評価及び関係者への改善策	・秋田県健康福祉部長寿社会課の「介護の仕事の魅力発見事業」の継続的な活用を含め、体験的な学習活動を意識的に実施する。 ・時事問題等を題材化し、生徒が当事者意識を持ちながら課題解決学習に取り組めるような授業を展開する。
----------------	---

重点目標	(1) 情報や情報社会に関心を持ち、身の回りの問題解決のために積極的に情報技術を活用して情報収集に努め、解決を果たすことができる力を養う。 (2) 問題解決に至る論理的思考力や説得力のある表現方法等を備えた発信力を身につけさせる。 (3) 情報モラルを高め、理性的な判断に基づいた適切な対応を身につけさせる。 (4) セキュリティ意識・知識を高め、安全に情報技術を活用する実践力を身につけさせる。
------	---

目標達成のための具体的な手立て(方法)	(1) 初期段階でPCに慣れさせ、問題解決に必要なスキルを指導する。 ・情報技術を用いた問題解決の提案、指導 ・教科「総合」と連携し、課題解決に当たる。 (2) インターネットをはじめとした情報収集方法・分析法を指導する。 ・発表材料となる具体例や数値の示し方など分かりやすい表現を指導する。 (3) 知的財産権や個人情報等の扱いに対する基本的知識や考えを指導する。 ・SNSや動画、画像等の投稿などにおいて求められるモラルを考えさせる。 (4) 安全なパスワードの設定、管理を実践させる。 ・実際の情報漏洩の原因、結果、影響について学ばせる。
---------------------	--

目標達成により期待(予想)される生徒の変容の様子	(1) インターネット検索や文書作成等の課題を適正時間内に行うことができる。 ・作業に割かれる時間が減ることにより、考えたり、話し合ったり等が活発にできる。 (2) 自分の調査や分析について自信を持って発表することができる。 (3)(4) 実生活で権利や情報を扱う際に適切な態度、判断を行うことができる。
--------------------------	---

具体的な取組状況	(1) タッチタイピングの速度目標を設定し、毎時間授業の最初に時間を取って練習した。 (2) 課題研究についての調べ物や、研究成果をスライドショーやポスターにまとめて発表を行う等の活動。 (3) ネット上の情報を扱う際に、発信者や情報の信頼性を確認する。 (4) PC ログインの際に共通ユーザーを廃止し、生徒個々にユーザーを割り当て、パスワードを設定させた。
達成状況	・ 8割以上の生徒が目標速度を達成し、抵抗なくキーボード操作ができるようになった。 ・ PCを利用しての調べ物をし、情報の信頼性や、著作権に配慮しながら発表用資料の作成を行えた。 ・ 自分のユーザー、パスワードを管理し、授業に参加できた。

自己評価	(評価) A 目標は概ね達成できた。ただ、授業内、コンピュータ室での様子でしかないので、生徒個人のスマートフォンの活用の仕方や、家庭でのPCの利用についても成果が現れることを期待したい。
------	---

↑ 評価基準
↓
A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者の評価と意見	(評価) A 情報化社会において基本的知識・技術を身につけることは重要である。引き続き基本を踏まえたスキル向上を目指して欲しい。
-------------	--

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	普段の生活で役立つ知識、スキルを身につけられるよう、生徒達が普段接する機器やサービスについて、指導を深めていきたい。 情報モラルやセキュリティ対策について、なぜそうすべきか理解していないため、情報に振り回される面がある。理解に根ざした行動ができるように指導したい。
-----------------------	---